

学校法人白頭学院
理事会・評議会 貴下

2018年度 学校関係者評価

2019年3月20日
学校法人白頭学院
建国高等学校
学校関係者評価委員会

○学校関係者評価実施について

- ・日時 2019年2月23日
- ・場所：白頭学院会議室
- ・学校関係者評価委員会構成（参加者）：6名
姜季兎（PTA 会長）、李貞姫（PTA 副会長）、安 鍾仙（PTA 広報）、
野口伊津子（保護者）、白美紀（保護者）、洪隆男（教頭）

○学校関係者評価内容

- ・生徒・保護者のアンケート並びに教員による自己評価に対してその妥当性を評価し、また改善法案などの意見交換を実施。

【教育目標関連、民族教育関連】（1～3、13～15の項目）

総じてこの2つに関するポイントは高いと言えるが、肯定意見(A+B)が教員100%：生徒60～70%代と双方での温度差があるように見える。学校では記念講話(=全体講話)などを行っているが、生徒の背景が様々な為理解に差があるものと思われる。全体ではなく小規模での講話・授業などで、子どもに関心・興味あることや映像を利用するなどして実施するのが効果的ではないだろうか。在籍生徒は韓国籍と日本籍が約半数ずつとその他の国籍、また韓国籍の中でも在日生徒と渡日生徒は約半数ずつであり、幼・小から本校在籍生徒、高校からの在籍生徒、など様々な生徒がいるのが現状の中、本校創立意義や民族的理解に関しては、個々の生徒に合わせた内容で、丁寧に回数を重ねて伝えていく必要性を感じる。

他の学校には無い本校の特色をよりもっと前面に出せるように、さらなる努力を望む。

【学習進路指導関連】 (4～8の項目)

生徒の肯定意見はこの項目全体で70～80%代と高いが、教員は⑤67%、⑥58%と低めである。進路について見据え、しっかりと授業を聞くということに対し、生徒自身の自覚が薄いように感じられる。

本校生徒の進路は多岐にわたる。これは生徒が自分の将来を幅広く、そして真摯に考えることができる学校であるとも言えるが、それゆえに自分の進路について悩み、決めかねる生徒も多いと思われる。生徒が進路に対して早い段階で考え悩むことができるよう進路指導の強化を望む。

進路指導室の有効活用〔決まった曜日や時間帯で一定の開放時間を設け、その時間帯は教員も配置し、生徒が自由に訪れ調べたり相談できたりする〕や、卒業生である現役大学生（日本・海外両方）や専門学生の声・アドバイスを聴ける機会など、生徒がビジョンを持ち、自覚して取り組めるような機会をたくさん与えていただきたい。

【学校施設生活関連】 (9～12の項目)

⑨「悩みや相談をしやすい環境」に関しては、教員100%に対し生徒66%と温度差がある。このことを教員も自覚して頂き、生徒指導は担任や各担当教員任せではなくチームで取り組んでいただきたい。教員研修の一層の充実も必要と感じる。

クラブ活動の充実感に関しては、所属するクラブによって差があると思われる。新しくできたクラブもあり、クラブに所属する生徒の割合も多いのは本校の良い特色である。どのクラブであっても生徒が充実感を感じられるように、強化クラブ以外のクラブにおいても外部講師の受け入れや練習環境の確保など、一層の充実を生徒と共に図っていただきたい。

【総論】

生徒評価の肯定回答が全て60%以上であり、全般的に一定の評価水準に達していると言える。ただ、いくつかの項目で生徒と教員の評価に温度差が感じられる。

小規模校ならではの学習面での個別対応や指導などが有ることは評価できるが、生徒自身が意欲を持ってその環境を利用できるよう、より一層のきめ細かい生徒指導を期待する。